



ほけんだより



令和8年8月
さぎ沼なごみ保育園

厳しい暑さが続く毎日ですが、子どもたちは水遊びで元気いっぱい過ごしています。
暑さに負けないよう、ご家庭でも「こまめな水分補給」と「早寝早起き」で生活リズムを整えていきましょう。

暑い夏、屋外でのやけどに注意！



こんなところにやけどの危険！

- 滑り台などの金属でできた遊具の表面温度は太陽に熱せられて、約70℃以上に達するという報告もあります。
- 日差しで滑り台が熱くなっていたため、おしりをやけど。
 - 高温になったマンホールや排水溝、ベンチなどでやけど。
 - 歩道で転んで手をついたときに、手が赤くなる。
 - 住宅のベランダが高温になっていて、素足で立ったら赤くなる。
 - 子どもが車を乗り降りする際に、ボンネットやボディの金属部分に触れてしまい、皮膚に激しい痛みを感じる。
 - 日なたに停めていた自転車のチャイルドシートが熱くなっている。



事故を防ぐためのポイント

- 大人に比べ皮膚が薄いことなどから、子どものやけどは重症化する傾向があります。高温になるものが周囲にないか確認しましょう。
- 夏の炎天下では、住宅のベランダ床やサッシの金属部など直射日光にさらされたことで高温になっています。素手や素足で触れないように注意しましょう。
- 暑い時間帯は避け、涼しい時間に公園で遊びましょう。
- 肌の露出が多い服装や、裸足を避けましょう。
- 暑さは目では分からないので、保護者が手で触れて、遊具の表面温度を確認しましょう。



もしやけどをしてしまったら…

- すぐに流水で冷やす。(15～30分)
- ※衣服と皮膚がくっついていている場合は、衣服は脱がさずその上から流水で冷やす。
- 顔・目・耳など流水を当てにくい場所は、布などでくるんだ保冷剤で冷やすのも効果的！！
- 子どもの調子が悪そうな時、やけどの範囲が子どもの手のひらよりも広い・多数ある・深そうなやけどの場合はすぐに受診する。(皮膚科や形成外科、なければ小児科)



車内温度の急上昇に注意

夏の炎天下では、車内は直射日光だけでなく、路面やアスファルトからの反射熱も影響します。これらの熱は車内に入り込み、外気温以上に車内温度を上昇させる要因となります。たとえエアコンを使用していても、直射日光や反射熱によって体温が上がりやすいため注意が必要です。子どもは体温調節機能が未発達で熱中症になりやすいです。短時間であっても子どもを車内に残して車から離れないようにしましょう。場合によってはハンドルやダッシュボード、チャイルドシートの金具の部分も熱くなっていることもあるため火傷を負ってしまう可能性があるため注意が必要です。

参考文献：東京都生活文化局、おぎくぼ小児科、一般財団法人気象協

自転車に乗せるときのルール

- 16歳以上の大人が運転する場合、小学校就学の始期に達するまでの幼児を
- ・幼児用座席(チャイルドシート)に1人乗せる
 - ・幼児用座席に1人乗せ、さらにもう1人を「おんぶ」する
 - ・幼児2人同乗基準適合車(3人乗り対応自転車)の座席前後に2人乗せることは可能です。

※3人乗り自転車(前後座席に子ども2人)を使用している場合は、さらにもう1人をおんぶすることはできません(4人乗りは禁止)

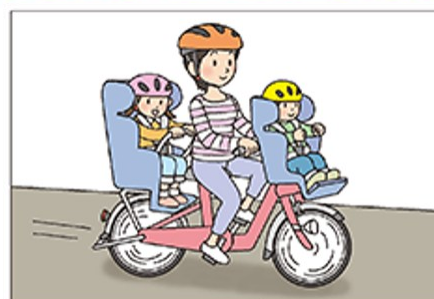
※前抱っこで子どもを乗せるのは法律違反となります。

自転車が歩道を通行する場合は、車道寄りの部分を徐行しなければなりません。
子どもだけでなく運転者もヘルメットをかぶるようにしましょう。



BAA マーク
幼児2人同乗基準
適合車マーク

BAA、SGなど車体の安全性を示すマークがついたものを選びましょう。



参考文献：警視庁